

# 図書環

1190071 小松 桃子  
 指導教員 重山 陽一郎  
 高知工科大学 システム工学群  
 建築都市デザイン専攻

## 1. 背景

高知県南国市の南国市立図書館は、蔵書数や席数が少なく、暗い雰囲気ですぐに入り難く、若者が図書館離れをしてしまっている。また、南国市は子育て支援機能の不足、少子高齢化、文化交流の場がままならないといった課題を抱えている。

図書館は、多世代が気軽に訪れることができる場所であるからこそ、コミュニティを生み出し、コミュニケーションを生成する力を持っている。この潜在能力を引き出し、本を中心とし人をめぐらす「図書環」を提案する。

## 2. 目的

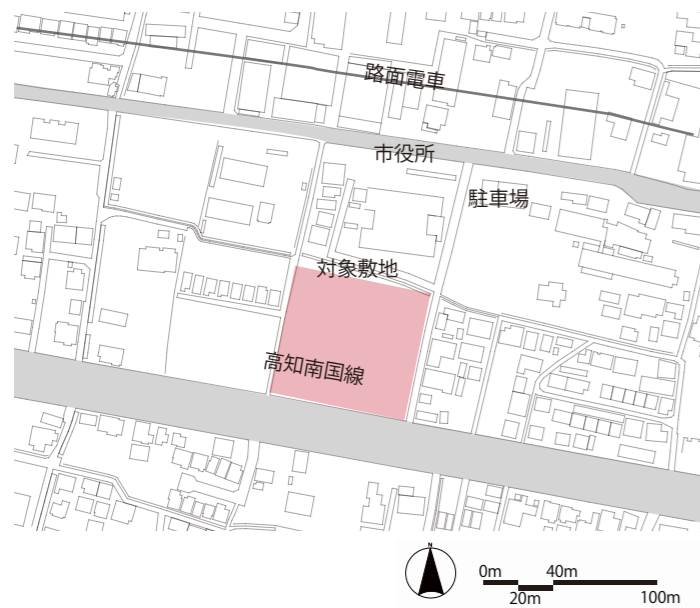
周囲から図書館の様子が分かる設計に加え、本一冊に込められた膨大な知に対して畏敬の念を感じさせる設計を通じて、人々に本に興味を持ってもらう。

また、子育て支援機能を図書館に導入し、気軽に訪れることができるようにする。高齢者に対しては、活動的な高齢者と、図書館を利用することが困難な高齢者へそれぞれのサービスを導入する。

そして、人々が集い、交流が生まれる図書館にする。

## 3. 対象敷地

対象敷地は高知県南国市役所の南側の敷地とする。路面電車、バス、JRの最寄り駅が近く、アクセスが容易であり、南側の高知南国線は、シンボルロードとして整備されている。図書館の駐車場は市役所と兼用とする。



【図1 対象敷地地図】

## 4. 設計方針

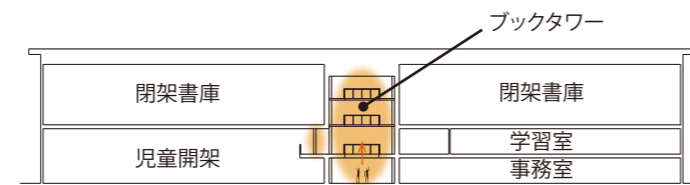
### 4-1 蔵書数の検討

対象人口を5万人として計算し、蔵書数30万点、席数150席以上に設定した。これは現在の南国市立図書館の約3倍にあたる。

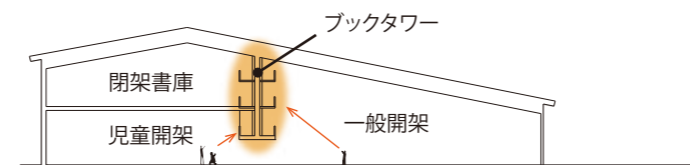
### 4-2 畏敬の念を感じる空間

本に対する畏敬の念は、知識の集積や歴史から感じるものだと考える。

そこで、本来は見えない場所に配置する閉架書庫の一部をブックタワーとし、見せて保管する。2階から4階の壁面に配架することで、人々は見上げる度に、閉架書庫から畏敬の念を感じることができると考える。【図10】



【図2 X-X' 断面図】



【図3 Y-Y' 断面図】

### 4-3 子育て支援と高齢者サービスの導入

子育て支援機能を、誰でも訪れやすい図書館に入れる事で、地域に親子の「居場所」がふえ、子育てを相談する仲間ができる。【図11】

高齢者へは地域活動の場を与え、高齢者を対象とする講座や朗読会を行うことで、新たなコミュニティを生み出すと共に、高齢者と本を繋げる。

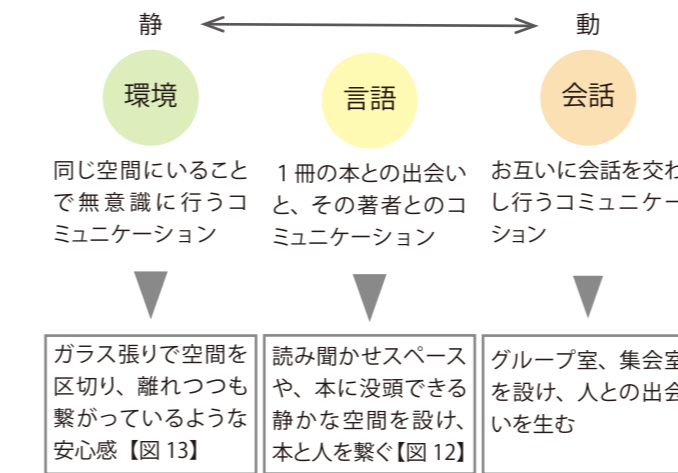
また、図書館の利用が不自由な人でも必要な情報を入手できるように、車椅子の常備、オストメイト対応のトイレや対面朗読室を設けた。

### 4-4 コミュニケーションの生成

様々な世代が集まる図書館を、コミュニケーションを生み出す空間にすることで、南国市の新たな交流拠点となる。



【図4 一般開架スペース】一般開架からは、ブックタワーを見渡すことができる。中央には、展示コーナーや閲覧スペースがある。



【図5 3つのコミュニケーション】

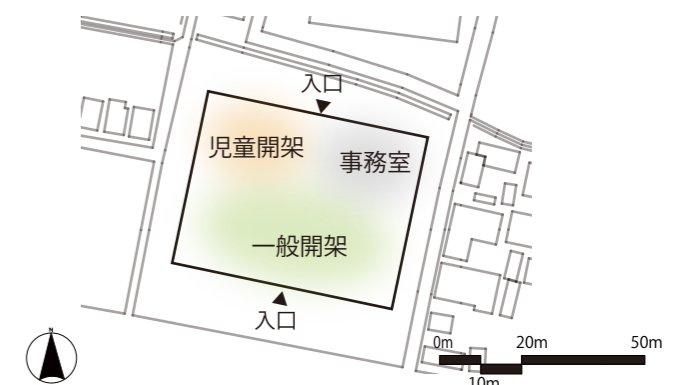
## 5. 設計

### 5-1 配置計画

1階の一般開架は、南側のシンボルロードから様子が見えるように配置した。事務室には移動図書館の車庫が必要なため、北側の道路側に配置した。

また、【図3】のように児童開架と一般開架の上部の間にブックタワーを設け、空間を分けた。

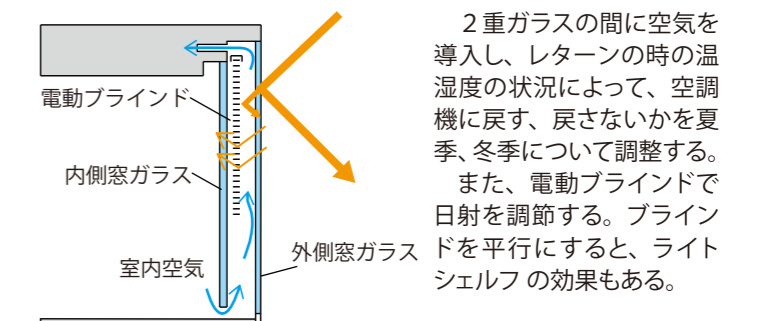
2階は学習室。3階、4階は閉架書庫とした。



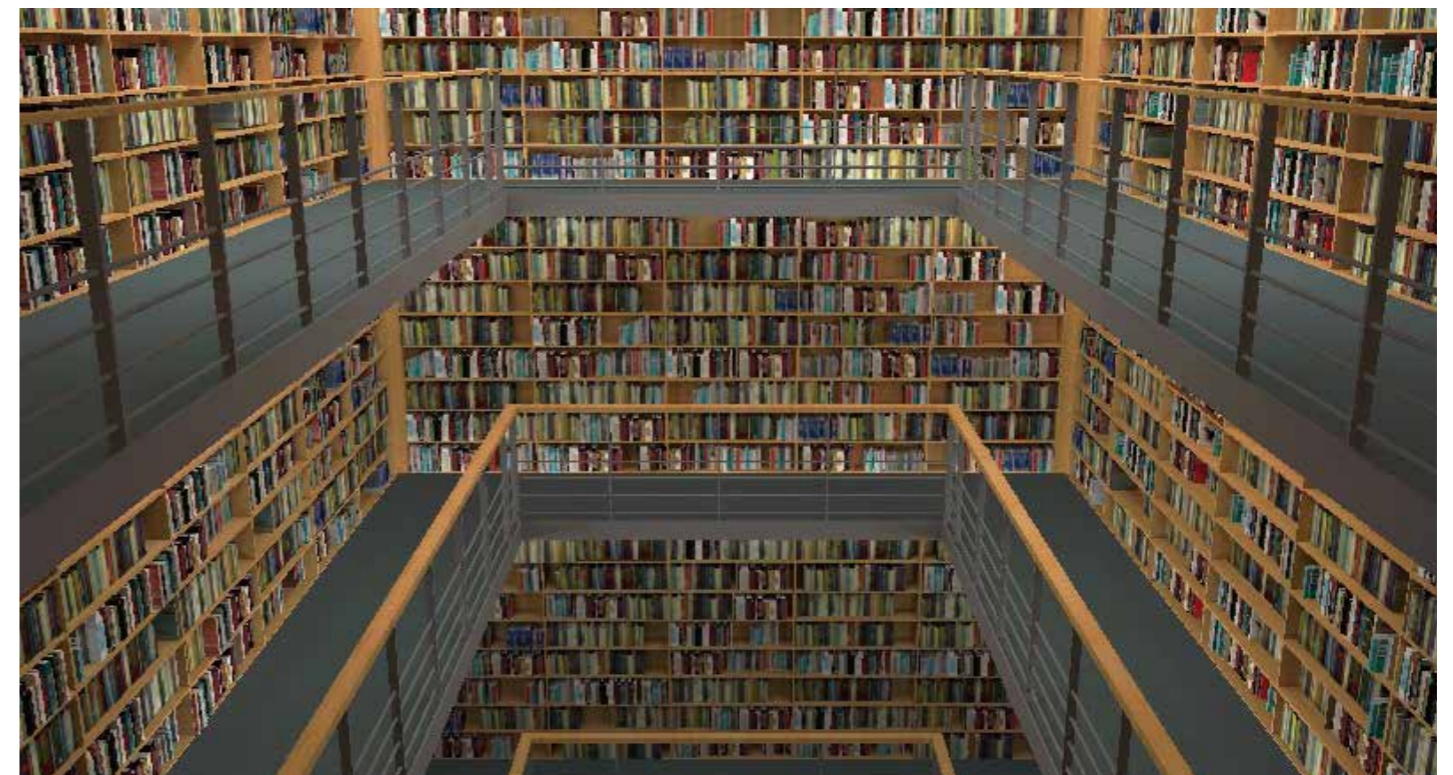
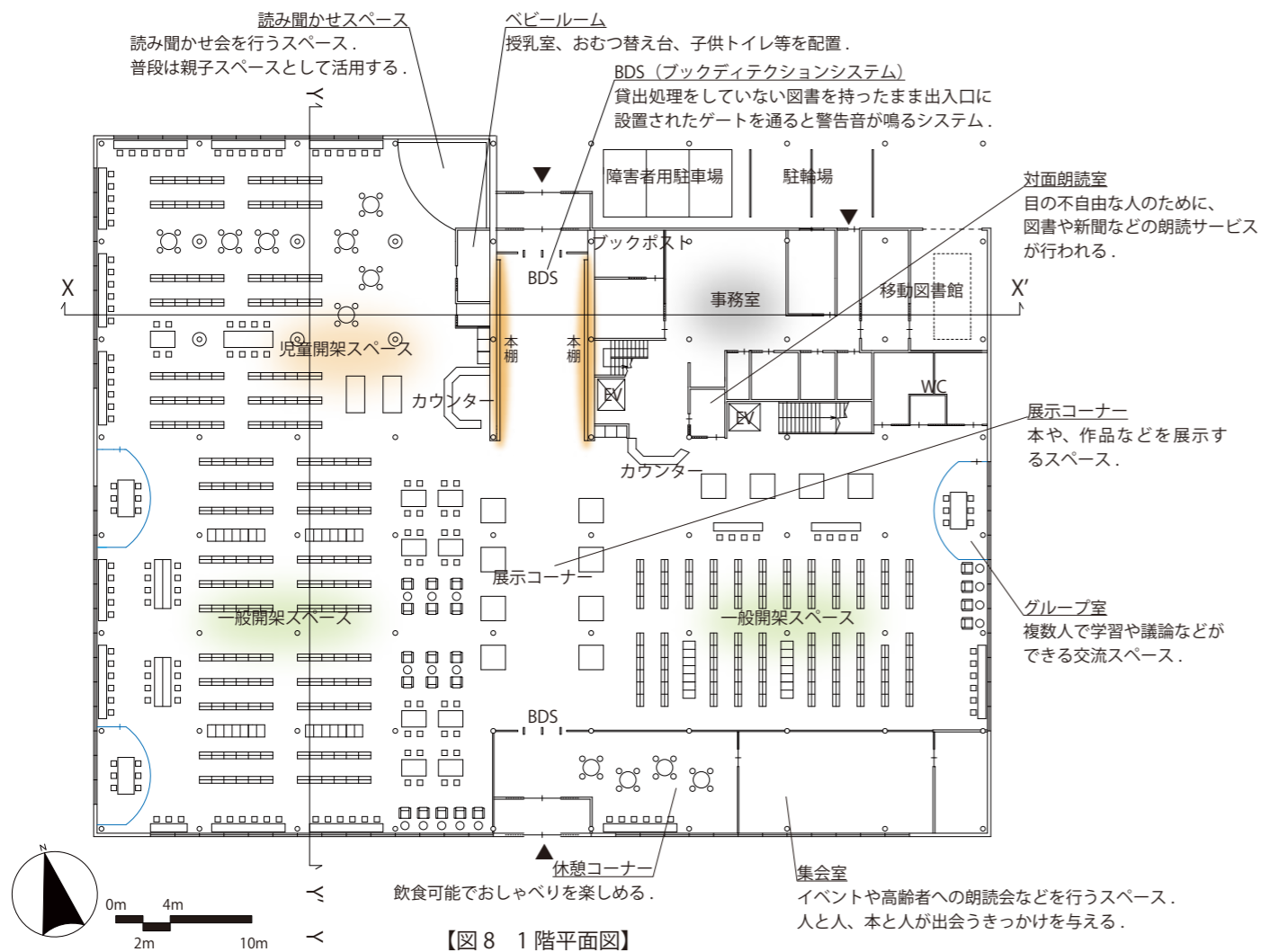
【図6 1階配置計画】

### 5-2 日射遮蔽と日照調整

日射遮蔽として、ライトシェルフとエアフローウィンドウを取り入れた。



【図7 エアフローウィンドウ】



【図10 ブックタワー】  
北側入口を入ってすぐにあるブックタワー。1階から4階までの壁3面が本棚になっており、閉架書庫に囲まれることで、畏敬の念を感じることができる。  
また、キャットウォークを設置し、地震時の本の落下を防ぐために、本棚を壁に固定し、感震式のブックキーパーを設置した。



【図11 児童開架スペース】  
1階の児童開架にはお話の部屋や、ベビールーム、子供トイレなどを設けた。また、2階部分は吹抜けになっており、閉架書庫が見える。



【図12 学習室】  
学習室を事務室の2階に配置し、本に没頭できる静かな空間とし、本と人とを繋げる。



【図13 一般開架スペースとグループ室】  
グループ室をガラス張りにすることで、同じ空間での無意識のコミュニケーションをもたらす。また、若者から高齢者までの交流の場となる。



【図14 南側の外から見た図書館】  
南面大開口により、図書館の中の様子を伺うことができ、誰でも図書館に入りやすい環境とした。

